

苫小牧市立清水小学校学校便り

# 清水の子

『未来を創造する  
清水の子の育成』  
◇学びを広げる子  
◇思いやりあふれる子  
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

Eメール simizu-es1@city.tomakomai.hokkaido.jp  
第 11 号 平成 29 年 2 月 23 日発行



## 本物を見る

校長 一谷 浩之

1月に行われた「清水小学校PTAの集い」では駒沢高校吹奏楽局を迎えてのコンサートを行いました。全国レベルの高い技術のマーチングを全校児童と、保護者の皆さん、地域の皆さんと共に鑑賞し、とても素晴らしい時間を共にし感動することが出来ました。コンサートの終わりに校長挨拶として次のようなことを話させて頂きました。

「駒沢高校の演奏カッコよかったね。凄かったね。カッコいいと思ったら本気で憧れなさい。中途半端でなく心から凄いなあ。カッコいいなあ。あんな風になりたいなあ。と強く思いなさい。それが感動と言うんです。その憧れが夢と言うんです。中途半端はだめです。強く思いなさい。この感動は本物を見たからこそ生まれる心の動きなんです。しっかりと本物を見分けなさいよ。君達の大好きなゲームとかは残念ながら偽物なんです。見誤っちゃいけませんよ。」

本物が持つ本物の真実。見せかけではなくまやかしてもない努力に裏付けされた真実にたくさん触れて欲しいと思ったPTAの集いでした。

私が伝えたかった真意は、スマホ、ゲームに代表される液晶画面は本物ではないということです。液晶画面に触れての脳の動きはごく一部の決まった場所しか働いていないことが研究からわかっています。そのように鍛えられた脳は一定の刺激にしか反応せず、この世で起こっている現実の世界には極めて無関心な反応を示すのだそうです。最近の若者が起こす事件を連想しませんか？我々大人は愛情を注いで豊かな感性を持った子ども達を育てていなくてはなりません。愛情を注ぐと言うことは手間と時間がかかるものです。手抜きは無理です。

しかし、愛情を注ぐと言うことは実は単純なことだという話を聞きました。愛情とは感動を共有することで伝わりと言うんです。

『毎日一緒にご飯を食べて「おいしいね」と共感することが愛である。野に咲く一輪の花と一緒に見て「きれいだね」と共感することが愛である。楽しい体験と一緒にして「楽しいね」と共感することが愛である。』

今、子ども達の生活に愛はあるでしょうか。豊かな心を育む愛は足りているでしょうか。豊かな心を育むことを妨害しているまやかしの世界は子ども達の生活にどれくらい浸食しているのでしょうか。

駒沢高校の本物に触れて、ふと心配になった私です。

